



平成29年度中学校武道授業(なぎなた)指導法研究事業

平成29年度中学校武道授業(なぎなた)指導法研究事業(主催=日本武道館、全日本なぎなた連盟、日本武道協議会、後援=スポーツ庁、東京都教育委員会、協力=晃華学園中学校高等学校)が10月28日、東京都調布市の晃華学園中学校高等学校において、全国から研究者5名が出席して実施された。本研究事業は平成24年度から完全実施された中学校武道必修化の充実に向け、なぎなたの特性を踏まえた指導法の研究をするものであり、今年度は2回実施を予定している。1回目の今回は、私立晃華学園中学校におけるなぎなた授業の視察と併せ、都内保健体育科教諭を主な対象とした実技体験会を実施した。

◇開講式

はじめに今浦千信全日本なぎなた連盟常務理事が挨拶に立ち、「日本武道館様のご支援・ご協力により『中学校武道必修化指導書』が完成いたしました。本研究事業は、なぎなたの授業をより良いものにすることを目的としています。今日は晃華学園中学校での授業を視察することにより、教育の中でなぎなたをどう活かしていくかを考えていきたいと思っております。今日1日、有意義な協議をしていただきたいと思います」と述べた。



今浦千信 常務理事

続いて、吉野喜信日本武道館振興部長が挨拶に立ち、「本研究事業は全日本なぎなた連盟と日本武道館の共催事業として、本年度で8年目を迎えました。今年3月末に次期学習指導要領の告示があり、中学校武道必修化はさらに10年継続実施されることが決定しました。日本武道館としても将来を見据えた指導法研究事業にしていかなければならないと考えています。



吉野喜信 振興部長

また、日本武道協議会では設立40周年の記念事業として『中学校武道必修化指導書(DVD付)』を今年5月に刊行し、全国の中学校、都道府県市区町村教育委員会などに約1万6千巻を無償贈呈しました。今回はこの指導書を活用した初の授業実践による指導法研究であり、1日開催で時間が限られておりますが、指導内容、指導法をしっかりとご検討いただき、中身の濃い研究事業となることを期待しています」と述べた。



今回会場となった晃華学園は、カトリック系中高一貫教育の女子校で、なぎなたの授業は中学校武道必修化が平成24年度から始まることを見越し、平成23年度より実施している。

◇授業視察 << 1年生・3/10 時間目 >> (50 分間)

授業を担当した増田^{みちこ}倫子教諭はなぎなた未経験者であり、本年5月刊行の『中学校武道必修化指導書』に基づいて授業を実施した。

整列後、まず本時の学習のめあてである「体さばき」及び「送り足」「歩み足」「継ぎ足」について説明した後、DVDで実際の動きを確認した。担当教諭からは、「しっかり軸を作り、低い姿勢で行うこと」などエアなぎなたでポイントが説明された。続いて、運動量確保を目的とした、タイムを計ってのランニング。その後、運動靴を脱いで裸足になり、正座をして全員で「黙想」「座礼」で心を落ち着かせた。いよいよ全員なぎなたを持つての実技となり、まず、号令に合わせて「送り足」「歩み足」「継ぎ足」が行われた。体育館のラインを目印に真っ直ぐ前後に移動した。その後、二人組となり「中段の構えからメン」「八相の構えからメン、スネ」を号令に合わせて合わせながら打つ練習。授業後半では、スネ部分をしっかり打ち込む練習がされた(下写真参照)。最後に、黙想・座礼の後、「今日は大きな声が出ていて大変良くできました。仲間や道具に感謝する心を大切にしてください」と締めくくり、授業は終了した。

◎生徒の声

「最初は持ち方もわからなかったが、授業を受けるうちに振り方や足さばきが段々とできるようになり、楽しくなってきました」



スネ打ちの練習

◎授業実施者=増田倫子教諭談

「生徒たちは初めて触れるなぎなたに大変興味を示し、意欲的に取り組んでいます。私自身初心者なので、技の正確性について不安はありますが、自信を持ってやるようにしています。また、かけ声については、なぎなた



特有の発声があるので特に気を付けています。『中学校武道必修化指導書・DVD』を活用し、小倉尚美先生にアドバイスをいただいで勉強しています」

◇実技体験会 (45 分間)

また、今回の体験会には、都内を中心に10名の中学校保健体育科教諭及び学生(1名)が参加した。まず全員で円になり「送り足」「歩み足」「継ぎ足」「開き足」などの「足さばき」を行った(下写真参照)。続いて二人組となり、「メン打ち」「スネ打ち」を行った。最後に班別でレベルに応じた実技を行った。

◎参加者の声

「今後女子校に転勤になることもあると思い、参加した。なぎなたは怪我をするリスクが低いので生徒にとって良いのではないかと思います。初めて体験したがとても楽しくできた。持ち変えるところが難しかった」(私立男子中学校・保健体育科教諭)



円になって足さばきの練習

◇検討協議

なぎなたを授業で行う価値について、「球技は相手よりボールの方を覗てしまうが、なぎなたは相手をよく見て、相手を感じることができているのが良い点だと思う」「大きな声を出すことができない中学生が増えているので、『メン!』『スネ!』と発声することにより、大きな声を出すことを覚える良い機会になると思う」「柔道では相手に遠慮してしまうことがあるが、なぎなたは思い切ることができるので、それぞれ自分の持っている力を発揮できるのが良いと思う」などの意見が出た。また、授業を実施する上での難点としては、「防具購入・外部指導員への手当などの予算がない」「高校に進学した際になぎなたを実施する受け皿がない」との声があった。

◇開講式

開講式では、講評を松井亮子研究者が、主催者挨拶を吉野喜信日本武道館振興部長がそれぞれ行い、全日程が終了した。